



祐介の目

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

No.57

毎月1日号に掲載

さて、ばら祭のメイン会場である緑町公園北の角地に移設された「歩兵第四十一聯隊跡」記念碑の前では、福山市遺族会が出店し、物販や「備後護国神社護持会」入会案内、ミニコンサート等の催しで盛り上がっていた。記念碑が本来の跡地に移設されて最初のばら祭、そこに突如ロシア人の女性が飛び入りで歌いたいとの申し入れがあり、急遽歌っていただいた。日露戦争・万宝山の戦いにて鶴沢連隊長が戦死という激戦を想起し、運命的なものを感じた。紅白のバラで飾られた記念碑には多くの市民が足を止め、碑文を読み、先人の苦勞を偲んだ様子だ。41連隊の誘致が福山市市制施行の原点であり、その跡地で盛大に百周年記念のばら祭が開催される。これこそが福山市百年の歴史を象徴しているのではないか。

無料とはいえ老若男女2千人来場という結果は、昨今のワインブームが本物という証だろう。3月に福塩線を走らせたワイン列車も募集直後から反響が大きく、早くも第2弾を期待する声がある。井原市他の6市1町によるワイン特区も認可され、ふくやまワインプロジェクトの更なる発展に期待していただきたい。

日露戦争から大東亜戦争敗戦までの間、41連隊所属の将兵7千人余が祖国に殉じた。多くの将兵が遺骨さえ戻っていない事実をばら祭で学び、今後は戦後の福山市発展の礎となった英霊に対して思いを馳せる祭になってほしい。それでこそばら祭の重みが増すというものだ。歴史に学び、恒久平和を願うばら祭に発展して欲しい。

市制百周年記念ばら祭

ばら祭にて商工会議所による「ふくやまワインプロジェクト」のブースで、福山大学ワイン(赤白)と私の山野峡ワイン(赤)の無料試飲コーナーを開設したところ、2日間で約2千人の方が押し寄せて行列が途切れることが無かった。さらに試飲後の各ワインの評価は概ね好評であった。ただ、山野峡ワインが一番美味しい!という反面、一番美味しくないという評価もあり、ワインは万人受けが難しい事もわかった。

無料とはいえ老若男女2千人来場という結果は、昨今のワインブームが本物という証だろう。3月に福塩線を走らせたワイン列車も募集直後から反響が大きく、早くも第2弾を期待する声がある。井原市他の6市1町によるワイン特区も認可され、ふくやまワインプロジェクトの更なる発展に期待していただきたい。